

## 東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

### 大森・選択専攻科目

#### 血液・腫瘍科（2～9ヶ月）

#### 1 目的と特徴GIO

内科疾患において、血液・腫瘍科が関与する割合は決して少なくない。また、血液・腫瘍科の特徴として悪性疾患の割合が多く、そして適切な治療を受ければ社会復帰はもとより、治癒も可能な領域であり、迅速な診断と治療が求められる。日常臨床における症状と理学所見、採血検査により血液・腫瘍科疾患を鑑別し、適切な画像診断の選択、緊急性の判断、入院治療の必要性の判断、初期治療について習得する事を目的とする。研修医の将来の専門性に関わらず、臨床医として日常診療における血液データの解釈・判断と対応ができる基本的な診察・判断能力を理解する事を GIO とする。

#### 2 プログラム管理運営体制

東邦大学医療センター大森病院血液・腫瘍科、名取一彦准教授を議長とする指導医会議において、本プログラムの管理、運営を検討する。研修指導内容・評価、病棟運営に問題が生じた場合、修正の必要を認めた場合は会議を招集し変更・改善する。

#### 3 教育課程

##### 3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は2～9ヶ月である。  
配置は血液・腫瘍科病棟において研修する。

##### 3-2 到達目標

###### 3-2-1 行動目標 SB0

医療人として、特に化学療法施行者として必要な基本姿勢・態度

###### (1) 患者-医師関係

- 1) 患者・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 患者・家族がともに納得し安心して治療を受ける事ができる。

###### (2) チーム医療

- 1) 癌治療を受けている患者に対して状態を把握し、指導医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) 患者の状態にあわせて各専門医にコンサルテーションができる。
- 3) 上級医師及び同僚医師、医療スタッフと適切なコミュニケーションが取れる。

###### (3) 問題対応能力

- 1) 臨床上の問題点を解決するために国内外の情報(文献)を収集し、収集した情報の質を正しく見極め、

臨床の現場に反映できる。

(4) 安全管理

- 1) 患者に最大限の安全な癌治療を受けられるよう、そして医療従事者の安全(感染症、抗癌剤曝露等)を確保する。
- 2) 感染症に対する理解・最新の知識を身に付ける。

(5) 医療面接

- 1) 医療面接における問診能力を身に付け、診断・治療に参考となる情報を得られる(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、職業歴、出身地、受診動機)。
- 2) 患者・家族に対して診断・治療方針について、患者・家族の心理面を十分ケアして説明できる。

(6) 症例提示

- 1) 症例を簡略にそして的確に提示することができ、他の病棟医と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンス、学術集会に参加する。

(7) 診療計画

- 1) 診療計画(診断、治療、病名告知、家族への説明)を立てられる。
- 2) 入退院の適応を判断できる。
- 3) Quality of Life を考慮した管理計画を立てることができる。

(8) 医療の社会性

- 1) 癌治療においては高額な医療費を必要とするため、特に保健医療法規、制度を理解する。
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切な医療行為をできる。
- 3) 癌治療における医の倫理、生命倫理について理解し適切に行動できる。

**3-2-2 経験目標SBO+LS**

**3-2-2-A 経験すべき診察法・検査・手技**

1. 緊急対応に必要な血球成分の異常を判断できる。
2. 表在リンパ節の正確な評価を行える。
3. 骨髄穿刺ができる。
4. 表面マーカーの理解・解釈ができる。
5. DIC・出血傾向・血小板凝集能の評価ができる。
6. 癌治療に伴う重篤な副作用に対処できる(緊急時気道確保・人工呼吸・心マッサージが実施できる)。
7. 輸血に際して、患者本人・家族に十分な説明ができる。

**3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患**

1. 重篤な貧血
2. 血小板減少症
3. 骨髄増殖性疾患
4. 再生不良性貧血

5. 固形癌化学療法
6. 好中球減少状態とそれに伴う内因性敗血症
7. 悪性疾患に伴う高 Ca 血症

### 3-2-2-C 特定医療現場の経験

1. バイタルサインを正確に把握し、初期対応ができる。
2. ショックの診断と治療ができる。
3. 緊急輸血の判断ができる。そして輸血の副作用予防処置ができる。
4. 血液疾患指導医への適切なコンサルテーションができる。

### 3-2-3 評価基準

血液・腫瘍疾患に対して適切な対応ができる基本的な診察、情報収集、患者面接態度、手技の能力が修得されたかを基準として評価する。病棟看護師長、直接指導医、病棟医長、本プログラム責任者それぞれを対象とした評価表を使用する。

### 3-3 勤務時間

研修期間中の勤務時間、休暇、当直に関しては東邦大学医療センター大森病院の規定に従うが、勤務時間は原則的に午前 9 時から午後 5 時である。しかし抄読会、症例検討会、勉強会、血液・骨髄液塗抹標本検討会などは勤務時間外に行われ、また担当患者の状態によってはこの限りではなく、指導医とともに管理にあたる。

### 3-4 教育行事

1. 総回診: 毎週1回水曜日午後に行う。担当医として症例提示を行う。
2. 症例検討会: 毎週月曜日、水曜日に行う。主治医は全員症例提示、文献的考察を行う。
3. 抄読会: 毎週水曜日、症例検討会の時に、指導医による海外研究論文の要約発表後、研修医に対して病態・検査・治療等に関して与えられるテーマについての文献検索したものの発表、6ヶ月間で review article 4 篇を読みこなし発表する。
4. 血液・骨髄液塗抹標本検討会: 毎週水曜日、顕鏡検討会を行う。診断、治療効果判定を行う。
5. 骨髄移植カンファレンス: 第2・4週の水曜日に骨髄移植の必要な症例に関して検討する。自家末梢血造血幹細胞移植の適応について、その準備計画、同種造血幹細胞移植の適応についての検討、骨髄バンク登録の検討を行う。
6. 研修医症例発表会: 毎月1回。東邦大学医療センター大森病院所属の研修医が、交代で自分の担当した症例を発表する。
7. 講演会: 年に数回、外来講師を招いて行う。

### 3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、東邦大学医療センター大森病院血液・腫瘍科 名取一彦准教授のもとに、指導医がマンツーマンの指導を行う。

#### 4 研修医個別評価

血液・腫瘍疾患に対して適切な対応ができる基本的な診察、情報収集、患者面接態度、手技の能力が修得されたかを基準として評価する。病棟看護師長、直接指導医、病棟医長、本プログラム責任者それぞれを対象とした評価表を使用する。